

京都府立医科大学医学部医学科カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

本学では、「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念に則り、有能な医学者・医師となるために必要な医学に関する基本的知識・技能と医の心とを教授し、医学の深奥を究め文化の進展と人類の福祉に寄与する医療人を育成することを教育理念として、これを実現するためにカリキュラムを次のとおり策定する。

1 医学知識と問題対応能力の育成

生命現象と人体の構造・機能を分子、細胞、器官、個体、集団のレベルで学ぶ基礎医学を基礎として、根拠に基づいた臨床医学を学ばせ、さらに診療参加型臨床実習等の医療の経験を通して、常に問題意識をもって症候・疾患・病態に幅広く対応できる能力を育む。

2 診療技能と患者ケア能力の育成

患者の肉体的な痛みや心の状態に配慮し対応できる能力等を身につけるため、プライマリケア教育を実施する。さらに、地域保健実習や地域医療実習等を通して地域の保健・医療の重要性を認識し、地域医療におけるチーム医療の実際を理解させる。

3 コミュニケーション能力の育成

患者とその家族との信頼関係やチーム医療従事者と良好な関係を築くためのコミュニケーション能力や問題解決能力を身につけることができるよう、低学年から段階的に講義、グループ学習、実習などの学習方法を取り入れる。

4 科学的探究心の育成

医学・医療に問題意識を持って向き合い、その課題を科学的に解決するための実験的研究や調査の重要性を認識し、研究データを客観的に検証する「研究マインド」を涵養するとともに研究倫理の重要性を理解する。さらにこれらの育成を図るために基礎医学・社会医学・臨床医学の参加型教育を重視することで、世界的な視野で研究・医療を実践できる基礎的素養を身につけた人材を育成する。

5 プロフェッショナリズムの育成

教養教育の充実化による幅広い教養や豊かな人間性を養うとともに、信頼される医療、安全性と医療倫理への配慮、課題探求・問題解決能力、チームの中での役割を見つけて果たす能力を身につけるための教育を実施する。

6 社会における医療の実践

地域社会はもとより、日本及び世界の医学・医療に貢献できる高い素養を持つ人材育成のため、地域での臨床実習を含む重層的な実地教育を通して、そのあり方や現状・課題を理解・体験させる。

7 国際的視野の涵養

国際的な視野で医学・医療を実践できる能力を身につけられるよう英語教育の充実を図り、交換留学等の国際交流を積極的に推進することによって、国際社会における医学・医療についてその現状を理解させる。

8 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

幅広い教養教育と専門医学教育との連携を重視し、生涯にわたって向上を続けるための知識・技能の取得や科学する心あるいは所作を身に付ける基礎を築くカリキュラムを提供する。

9 成績評価

各科目において掲げられた到達目標と成績評価基準に従って、公正で透明性の高い成績評価を行うとともに、修学成果を組織的に評価することにより教育の質保証に向けた取り組みを行う。